

東青 みどりの通信

NO. 88
平成21年
1月15日



東青地域県民局地域農林水産部
■ 普及指導室 ■

〒030-0801
青森市新町二丁目4-30 (tel 017-734-9965、fax 734-8305)
電子メール hi-nosui@pref. aomori. lg. jp

東青地域農業フォーラムを開催しました。



熱く語る徳江倫明氏

「農産物のマーケットの動向に対応した今後の販売戦略!」をテーマに、昨年12月3日に県総合社会教育センターで東青地域農業フォーラムを開催しましたのでその概要をお知らせします。

●講演会

FTPS(株)代表取締役の徳江倫明氏が「農産物マーケットの動向と今後の農業の展望」と題して講演を行いました。徳江氏が設立し有機農産物の宅配事業を行う「らでいしゅぼーや」や、岩木川流域の小学生が河川の環境について学びヤマメの放流を行う「フードトラスト岩木川」、トキワ養鶏と提携し休耕田で栽培した飼料米で育てた玉子の販路拡大を図る「こめたまプロジェクト」の取組などが紹介されました。

また、徳江氏からは、次のような提言がされました。

- ①「安全・環境・品質」の3点は、これからの農業にとって無視できない。また、食の安全・安心の流れは後戻りすることはない。
- ②消費者の8割が「食の安全」を重視し、製造・加工段階に加え、生産環境にも強い関心を示している。自分が農業をしている地域の環境はどうなっているかを整理しておく必要がある。
- ③日本農業は農薬や化学肥料の投入量、産業廃棄物



販売方法について熱心な意見が交わされた

の排出量も多く、環境に一番負荷を与えている。

- ④農協の部会がエコファーマーの認定を受けているように、今後はGAPの認定がスタンダードになる。農業にとって資産は土。本気で農業をする人は土を大切にする。
- ⑤表示は消費者とのコミュニケーションツールの一つ。しかたなくやるのではなく自分を伝えるための道具だと考える必要がある。市場の役割が縮小する中で、直売所等での顔が見える販売を原点にすべきである。
- ⑥販路別・用途別にフードチェーンという発想を理解し、生産も販売もよく知っている生販コーディネーター（中間流通者）をどんどん活用すべきである。などの示唆に富んだ講演でした。

●パネルディスカッション

講演に引き続き農業経営士の富士英雄氏及び藤田修一氏をパネリストに、徳江倫明氏を助言者にパネルディスカッションを行いました。

自分で販売する力を持たなければ生き残れない。生産者と販売店が情報と気持ちを共有することが素晴らしい農産物・商品づくりにつながる。販売ルートを複数持つとともに、商品表示では「自分の思いを伝えることが大事」などの意見が出されました。

後継者を迎え、家族経営協定を締結

今年度、東青地域で、新たに5戸が家族経営協定を締結しました。

青森市の木立誠家、木村誠一家、佐藤信一家、外ヶ浜町の小林忠幸家、今別町の田中瀧雄家と、それぞれ次代を担う後継者を確保している農家でした。



外ヶ浜町の第一号の小林家

小林家と田中家は、外ヶ浜町及び今別町の第一号の締結農家です。

締結した皆さんは、後継者を迎え、農業をもっと魅力ある職業にと、農業の役割分担や労働時間・休日、労働報酬、経営移譲などについて、家族でじっくり話し合い、約束事を協定書にしています。

協定を締結した後、認定農業者に共同申請したり、農業者年金の基本保険料の助成を申請するなど、制度的なメリットを活用しています。

締結した方々からは、互いに協力し合い、意欲を持って農業に取り組める環境づくりができたという声を多く聞きます。

家族経営協定に関心のある方は、是非、各町町村の農業委員会か当普及指導室に御相談してください。

わげもの おらほの若い人(トッパーナー)紹介!

就農当初は両親が観光農園を経営しているため、漠然とその手伝いをするつもりとのものでしたが、来園者が減少する7月、8月に何かできないかと考え、花き栽培に夫婦で取り組み始めたと言います。今では、320坪のハウスでトルコギキョウやキク等を栽培し、今年度から県の将来を担う農業者(トッパーナー)として新しい品種の栽培等、日々頑張っています。

「将来は、『川村さんの花がほしい』と生産者指名されるようになりたい。また、若い感性を活かして日々情報収集に努めながら、珍しい品種を消費者に提供していきたい。」と語ってくれました。

これから就農する人へのアドバイスとして「手をかければかけた分、必ず結果が

☆ 青森市田茂木野 川村 仁・美紀さん ☆

いてくるので、とてもやりがいがある。だけど、苦労も同じくらいあるのも周知のとおり。無理のない範囲で挑戦してください。」と話してくれました。地域農業の担い手として東青の若い人頑張ってます。



「二人でにっこり」キク栽培ハウスにて

とうせい花*花フェスティバルを開催しました



初めて作るすすきのフクロウ



ちびっこフラワーアレンジメント教室

昨年秋、とうせい花*花クラブと関係機関が、青森市新町のパサージュ広場において「とうせい花*花フェスティバル」を開催しました。

この催しは、生産者自らが花きのPRを行うことで、消費者の花き生産への理解を深めるとともに、東青産花きの消費拡大を図るために、青森市新町商店街振興組合と東青地域県民局の協力を得て開催したものです。

当日は、東青産花きを使用したフラワーアレンジメントの実演や花の生産に関するクイズ、すすきのフクロウづくりなど、体験を通じて家庭生活の中での花に対する関心を高める「^{はな}花育」の取組みを重点的に行いました。

特に、保育園児を対象にしたフラワーアレンジメント教室では、市内で生花店を営む小笠原さんに講師をお願いして、スプレーギクやトルコギキョウなどの東青の特産花きのお花畑に、

カーネーションのウサギを配した「お月見」のデザインのアレンジメントを行ったところ、「おもしろかった」「お花がきれい」と園児たちは大喜びでした。

また、生産者とJAによる花の直売コーナーには多くのお客様が集まり、品質の良さと価格の安さで売れ行きを伸ばすとともに、消費者からは「地元でこんなにりっぱな花が生産されているのは知らなかった」という声が聞かれました。

とうせい花*花クラブとしては初めてのイベントだったため、東青農水産物加工協議会の協力で「東青の味」コーナーを設け、漬物や味噌などの加工品販売を行ったところ、リピーター客も多数訪れ、盛況な一日を過ごすことができました。



「難しい？」クイズの答えは後ろのパネルに…



大盛況だった新鮮な花と農水産物加工品の販売

「ひょう太君」への御支援ありがとうございます!!

昨年は春の降霜、降雹により過去に例を見ない程農作物に甚大な被害を受けました。とりわけ、りんごについては果実が著しく傷つき、品質や価格の低下が避けられない状況で、生産者の精神的なダメージは計り知れないほどでした。

このような状況から、東青地域県民局、青森市、浪岡農協（現青森農協）による支援チームを立ち上げて、総合的な、生産・販売対策を展開してきました。

特に販売対策は被害生産者の経済的な支援と

直結するため、青果卸会社の全面的な協力をいただきながら「ひょう太君」の青森市内販売を計画・実施しました。

「ひょう太君」の販売は、市内20数店舗で大々的に販売され、「形が悪く、傷が付いていても味は普通品と同じでおいしい。」と売れ行きは好調でした。

かつてない雹被害を受け、いまだ経済的な痛手は大きいのですが、青森市民の応援に応えるよう頑張っています。今後とも消費者の皆様にはご支援をよろしくお願い申し上げます。



「ひょう太君」売場には、ひっきりなしにお客様が・・・（11月8日マックスバリュー浜田店）

東青ならではの、こだわりの味がアスパム1階イベントホールに大集合!!

第14回 元気なかつちゃの「味自慢・うで自慢」を開催します!

とき 平成21年1月17日(土)～18日(日)10時～15時

ところ アスパム 1階イベントホール

① **かつちゃの店** こだわりの加工品、農産物販売! (10時～15時)

② かつちゃの自慢料理店

(11時30～13時30分)

★あつたがご飯&漬け物コーナー

<17日> 平内のほたて炊き込みご飯

<18日> 今別のまぜるだけ、もずくご飯

★あおもり海道そばコーナー <17日、18日>

かけそば、そば団子、そば味噌、

そばかりんとう

★新商品コーナー <17日、18日>

トマト、がほちゃ、枝豆の 野菜スイーツ

③ 東青の味をプレゼント!!

※プレゼントが無くなり次第終了させて頂きます。

★先着100名様にプレゼント

(10時～)

★決め手くんとジャンケン杯!

(11時、12時、13時、14時)

ジャンケンに勝ったら、
プレゼントをさし上げます!!

